

**福島第一原子力発電所3号機原子炉建屋  
燃料取り出し用カバー 搬入  
現場確認結果について**

平成29年6月28日  
福島第一原子力規制事務所

**1. 目的**

3号機原子炉建屋は、水素爆発によりオペレーションフロア(以下、オペフロという)上及び使用済燃料プール(以下、SFP という)内には多くのガレキが散乱していたが、平成25年よりオペフロ上及び SFP 内の大型ガレキの撤去作業を開始し、無人重機によりオペフロ上の除染や遮へい体を設置するなど、作業員の被ばく低減を図っている。

燃料取り出し用カバーについては、東西方向にオペフロを跨ぐ門型架構及びその上部に設置するかまぼこ形のドーム屋根で構成されており、使用済燃料取り出し作業における放射性物質の飛散防止のために設置される。

昨日6/27早朝から、当該燃料取り出し用カバーのドーム屋根の一部が1F 構内物揚げ場に海上輸送されることから、現場確認を行った。

**2. 確認日時、場所及び確認者**

日時: 平成29年6月27日(火) 午前6時50分～9時10分

場所: 福島第一原子力発電所構内東側港湾 物揚げ場

確認者: 福島第一原子力規制事務所 坂本原子力保安検査官、久我原子力保安検査官

**3. 現場確認結果**

燃料取り出し用カバーのドーム屋根2基を積載した運搬船がタグボートに曳航され、午前7時25分に1F 構内東側港湾物揚げ場に着岸し、1基目のドーム屋根が8時30分に500tクローラークレーンで陸揚げされ、9時05分に2基目のドーム屋根の陸揚げが完了した。

今回、搬入されたドーム屋根は、2基で幅22.74m×高さ17.5m×奥行5.6mで重量は78トンあり、ガリバリウム鋼板(防錆性に優れ、軽量、高強度)、鉄骨材等で構成されており、最も海側(東側)近くに設置される。

形状は1/4の円形状であり、2つの頂部を接合し、脚部を門型架構に固定する。ドーム屋根は1F 構内での作業を極力少なくする目的で、いわき市小名浜にて空調ダクト、作業用足場・梯子等の一部が既に組まれて大型ユニット化されており、3号機オペフロ上での設置にあたり作業員の被ばく低減のため、ボルト締め等で迅速に設置可能となっている。

また、今回搬入されたドーム屋根は、8月まで物揚げ場で仮置きしたのちに、海拔10m盤まで構内輸送され、速やかに3号機オペフロに設置される予定である。



【写真1】 運搬船によるカバーの搬入



【写真2】 クレーンで陸揚げされるカバー



【写真3】 1つ目のカバーを陸揚げ



【写真4】 2つ目のカバーを陸揚げ

以上